

和歌山だよいい

平成21年 12月号
(2009)



(すさみ町) 恋人岬：黒島との海峡で打ち寄せる波がぶつかり合う光景が見られます。

ケンケン鯉：プレミアム和歌山

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P8
3. お知らせ…………… P9～P11
4. ふるさと歳時記…………… P12



ひいらぎ

「担当者制度」

塩野七生さんの「ローマ人の物語」の最近のものにディオクレティアヌス帝についての話がありました。帝はローマ帝国を4分割し、4人の皇帝の働きによって、とりあえず帝国の治安と防衛は守られたが、4地域がそれぞれ固有の軍備を整え、固有の官僚機構を整備させたので、全体としてはそれまでの何倍もの政府ができてしまって、これが結局はローマの活力を失わせたというのです。今でいうとタテ割行政の弊害、大きな政府の非効率というところでしょうか。

私は県庁をお預かりして3年近くになりますが、時によりこのタテ割行政の弊害を見かけます。自分に与えられた仕事はきちんとするが、他の部局と連絡、協議、協力をするのは少ないため、案件が部局の谷間に落ちこちたり、逆に同じような予算要求が複数の部局から上がってくることもありました。各部局の仕事を調整するのは知事一人というのでは大変です。私が、若い時から過ごしてきた通商産業省は、平気で他の部局や他の省庁の仕事にも口を出すところでしたから、余計こういう雰囲気には違和感があります。

そこで、タテ割行政の弊害が出ないようにさまざまな工夫を始めました。その一つが産業別担当者制度です。県の職員は、政策金融担当といった政策手段の担当をもっていますが、同時にそれぞれの人に〇〇産業担当という産業別の担当者になってもらいました。〇〇産業に関するさまざまな行政需要は、この担当者がすべて承知して政策手段の担当につながなければならないというものです。そうすると、担当者は、大いに産業界の人々と交わって、その苦労や状況を聞いてこななければなりません。今年からは各振興局内で、地域別の担当者を決め、市町村の職員とはもちろん、地域の方々ともっと交わって、地域のあらゆることの把握に努めよという制度も発足させました。職員はこれまでの仕事に加え、こういう担当の仕事もあって大変ですがタテ割行政に安住することなく頑張っています。県民の皆様におかれても、こういう制度を利用して、担当職員に何でもアプローチしていただくようお願いいたします。



中国山東省との
友好提携 25 周年
訪問団との調印
式での仁坂知事

今月の和歌山県政トピックス

最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●中国・山東省との友好提携25周年記念訪問団来県

- ・ 12月4日、和歌山県と中国・山東省との友好提携25周年を記念して、張万青秘書長を団長とする訪問団が来県しました。
- ・ 仁坂知事、富安県議会議長のほか県内関係民間企業・団体も出席し、今後の両県省の交流について会談を行いました。
- ・ その後、山東省旅游局と和歌山県商工観光労働部との間で観光分野における協力の強化と観光業の共同発展を目指した友好協力覚書を締結しました。これにより今後、両県省での双方の観光資源のPRなどを通じた観光交流の促進に取り組んでいきます。



●世界遺産登録5周年記念シンポジウムを名古屋で開催

- ・ 11月20日、中日パレス（愛知県名古屋市）で「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録5周年記念シンポジウム『世界から見た熊野の魅力』を開催しました。
- ・ 第1部の基調講演「熊野の魅力を絵解く」では、国際熊野学会事務局長 山本殖生氏が「熊野参詣曼荼羅」の絵解きを交えながら、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたその意義と、「蟻の熊野詣」といわれるほど多くの人々をひきつけた参詣道の歴史や文化的景観の価値と魅力を語りました。
- ・ 第2部のパネルディスカッション「熊野の魅力を世界に発信」では、コーディネーターに横内恭氏（中日新聞相談役）、パネリストとして、仁坂知事、柳 洲烈氏（元駐名古屋大韓民国総領事）、ポール・スワンソン氏（南山大学宗教文化研究所所長）、稲垣 隆司氏（愛知県副知事）が参加し、グローバルな視点から見た、世界遺産「熊野」の価値と魅力について、議論を深めました。
- ・ 各パネリストからは、ご自身と熊野との関わりや、ご自身が感じる熊野の魅力について語られたほか、その魅力を今後とも継承し、より多くの方々に味わって頂くための取り組みなどについて意見が交わされました。



● 「名古屋開府 400 年祭」 PR のため山口会長知事訪問

・ 12 月 8 日、東海和歌山県人会の山口会長が、来年 1 年間を通して開催される「名古屋開府 400 年祭」を広く知って頂くことを目的に、県庁を訪問されました。

・ 「名古屋開府 400 年祭」では、1610 年の名古屋城築城開始から 400 年を迎え、「これまでの 400 年」を振り返るとともに、「これからの 100 年」を展望し、未来の子供たちに夢と希望に満ちた名古屋を継承するため、「歴史と文化」「交流と祝祭」「環境」をテーマに記念式典記念誌発行や様々な催しを開催します。



400 年祭のキャラクター「はち丸」を知事に手渡す
山口会長

● 緊急経済対策本部における取組みを強化

・ 最近の県内経済は、一部に下げ止まりの状況が見られるものの、依然として厳しい状況が続いていることを受け、昨年 1 2 月に設置した『緊急経済対策本部(本部長：仁坂知事)』では、以下のとおり年末に向けた取組等の強化を図ることにしました。

I. 県内の業況把握・支援施策等の周知

- (1) 県庁各部・振興局に配置されている産業別担当者による企業訪問の強化。業況等の把握に努めるとともに支援施策等の周知。
- (2) 県の中小企業金融などの支援施策の周知を図るため、年内に、県内 4 箇所です「支援施策説明会」を開催。

II. 中小企業資金繰り支援

- (1) 「中小企業等金融円滑化法」の趣旨を踏まえ、12 月 1 日付けで県内金融機関等に対する金融円滑化の要請。
- (2) 緊急保証制度の対象業種として、ビール類製造業やカラオケボックス業など 14 業種が追加指定されたため、12 月 4 日から県融資制度の対象業種の拡大。
- (3) 公共工事の請負代金の支払い手続きを迅速に行い、建設業者の年末の資金調達の円滑化。

III. 雇用対策

- (1) 10 月 23 日政府発表の「緊急雇用対策」への対応や県内の厳しい雇用情勢を踏まえ、緊急雇用創出事業の前倒し執行に取り組み、新たな雇用の創出。
- (2) 高校生の就職支援に携わるハローワーク、教育委員会、県（ジョブカフェ）の実務者の連絡会議を設置。支援策の連携、情報の共有化等。
- (3) 「ジョブカフェわかやま」にコーディネーター等を追加配置し、求人開拓等を行い、高校生の就職促進。
- (4) 12 月 3 日開催の「わかやま就職フェア 2009」について、高卒予定者も参加できるようにする。

*その他、12 月 29 日及び 30 日に「年末相談窓口」を開設。

●「プレミアム和歌山」推奨品（第2弾）140件決定！



プレミアム和歌山

・12月2日、「プレミアム和歌山」認定発表会を開催しました。今回は、和歌山を代表する産物である、温州みかん、梅干、水産加工物、酒、醤油、備長炭、菓子類などの139品目、観光資源の料理として、めはり寿司1。昨年の第1回認定181品目同様、生産者、事業者が知恵と根気をもって、本県の地域特性を活かした「和歌山ならではの」、「和歌山らしさ」の生産者、事業者のこだわりと創意工夫を凝らした産物が勢揃いしました。



分野別認定数

製造物分野	加工食品	95	梅干類	果実ジュース	味噌・醤油 など
	伝統的工芸品	16	桐箆筥、棕櫚箆等		
	産業製品	6	はさみ、特殊撚糸手袋等		
生鮮物分野	農産物	8	温州みかん、桃、梅など		
	畜産物	4	熊野牛、イノブタ など		
	特用林産物	3	山椒、備長炭など		
	水産物	7	鯛、鰹、タチウオ、ケンケン鰹など		
観光資産分野	料理	1	めはり寿司		
	計	140			

・仁坂知事は、認定発表会で「プレミアム和歌山」認定産品を通して、「和歌山ブランド」の確立を図り、和歌山県産品の全体イメージの向上につなげていきたい、またアンテナショップ（東京有楽町「喜集館」）や物産展、商談会など、さまざまな機会を通じて、一般消費者や流通業界へのプレミアム和歌山の制度のPRを行っていくとともに、県内外の各企業者様に、社内商品販売、社贈答品などに積極的に活用してもらおうよう働きかけていくことなどを話しました。

・プレミアム和歌山認定品は、安全安心な和歌山らしさの逸品ばかりですので、皆様方におかれましても、個人でお求めに、また親しい方への贈り物に、また取引のある事業者への贈答品として是非ご活用下さい。



（プレミアム和歌山に関するお問い合わせは、産業ブランド推進室(073-441-2841)まで）

●首都圏で「みかんのトップセールス」（お台場）

日 時：平成21年12月3日（木） 12：15～12：45

場 所：アクアシティお台場（東京都港区台場1-7-1）

・12月3日、和歌山県農業協同組合連合会が主催となってアクアシティお台場のフジテレビキッズカフェママトコイベント広場において児童とその保護者を中心にみかんのPRを行いました。

・場内では、仁坂知事はじめ尾崎（要）県議会議員、浅井県議会議員、服部県議会議員、岸本県議会議員、松坂県議会議員、JA関係者らが法被姿でトップセールスを行いました。みかんにはビタミンCが多く、インフルエンザの予防にも効果が期待できるといったみかんの機能性などを大いにPRしました。

・会場では産地から参加した「みかっぴ」、「きちゅうくん」とフジテレビの「ラフ君」とのキャラクター同士によるみかんに関するクイズトークが繰り広げられ、会場を和ませてくれました。この後、会場の方々に、みかんが配布され好評でした。

・このイベントに併せ、フロア内にあるビュッフェではみかんを使ったメニューも提供されました。



●「和歌山なんだから みかんをもっと食べようキャンペーン」実施

日本一のみかん産地である和歌山県内の小学生等に、ふるさとのおいしい「みかん」を、旬の時期に提供し、「みかん」についてもっと知ってもらうとともに、子供の頃から「みかん」に親しみ、食する習慣を育てることを目的に、和歌山県内のすべての小学校合計288校（児童等数約59,000人）に、みかんを年内に配布します。みかんは、和歌山県JAグループから無償提供されます。そして、子供たちは「みかん」を味わうとともに、「みかんのお話」を教材に、みかんについての知識を深めます。

●「砂山小学校」で知事がPR

早速15日には、知事が市内の砂山小学校を訪れ、1年生の児童にみかんを直接手渡すとともに、みかんの効能について説明しました。



●「新農林水産業戦略プロジェクト 第6弾」！！

★新農林水産業戦略プロジェクト 第6弾！！

・多様な農林水産物を活用した生産・加工・流通・販売の総合的な取組を支援する「新農林水産業戦略プロジェクト」の第6弾として、「未利用魚や地域特産魚を活用した加工品開発と販売促進」プロジェクトを承認しました。

○プロジェクトの概要

(和歌山県漁業協同組合連合会（実施地域：県全域）)

・この事業では、ゴマサバやタチウオ等の加工品(切り身、ハンバーグ、コロッケなど)の開発、居酒屋チェーン等への販路開拓や学校給食への販売促進を行います。

・鮮魚の販売だけでは限界があるため、加工品として新たな販路を拡大し、所得向上を目指します。



ゴマサバ



タチウオ

・現在、県では16のプロジェクトを承認し、各地で取組を開始しています。今後も、和歌山の農林水産業がますます元気になるよう積極的に働きかけ、取組の拡大に努めてまいります。

●「半島振興対策促進大会」開催

・11月26日、アジュール竹芝（東京都）において、半島振興対策促進大会が、「半島地域振興対策協議会」、「半島地域振興対策議会議長連絡協議会」及び「全国半島振興市町村協議会」の主催で開催されました。

・主催者代表として仁坂知事が挨拶、藤本国土交通大臣政務官、川内衆議院国土交通委員会委員長、椎名参議院国土交通委員会委員長をはじめ、各県選出の国会議員、市町村長、県議会議員など約200人が参加し、「道路整備を着実に進めるため必要な道路事業費の確保」、「中山間地域等直接支払制度の継続」、「新過疎法の制定」などを含む9項目の大会決議の採択が行われました。

・その後、半島振興のための地域の取組事例として、島原半島ジオパーク推進連絡協議会から「島原半島ジオパークについて」、佐賀県唐津市から「ハート岬・恋人の聖地プロジェクト」の報告がされました。

・今後も、半島地域の振興に向け積極的に活動をしていきます。



●近畿自動車道4車線化などの道路整備の促進を求める要請

・11月30日、和歌山県市長会、町村長会、市議会議長会、町村議会議長会をはじめ経済団体など県内各22団体による官民一丸となった実行委員会主催による「近畿自動車道4車線化などの道路整備を促進する和歌山県民大会」が開催されました。

・この県民大会において、仁坂知事及び富安県議会議長に対して主催者である実行委員会から決議書が手渡され、道路整備の促進について要望を受けました。



・決議は次のとおりです。

- 一、 予算の執行が凍結された近畿自動車道紀勢線御坊～南紀田辺間の4車線化の早期着工
- 一、 紀伊半島を一周する近畿自動車道紀勢線や京奈和自動車道など高速道路の国の責任による早期整備
- 一、 道路整備を必要とする地方の切実な声に耳を傾け、本県の道路整備が遅れることのないよう予算の十分な確保

・12月3日、県民大会での決議を受け、地方の切実な声を国に届けるべく、仁坂知事と富安県議会議長をはじめとする県議会議員が実行委員会の方々とともに上京し、県選出国會議員への要請活動を実施しました。

・今まで高速道路をはじめとした幹線道路は都市部から優先的に整備が進められてきました。やっと本県に順番が回ってきてつつある段階でやめることは公正さに欠けるものであり、これ以上遅れることがないよう国に強く訴えるとともに各国会議員の皆様には協力を要請しました。

・また、実行委員会の方々からは、それぞれの地域の実情を述べ、道はつながってこそ道であるとして産業振興、観光振興などの地域活性化のため、また災害時や緊急搬送時などの命の道として高速道路ネットワークの早期整備の必要性を訴えました。

・今後も地方における道路整備の必要性をあらゆる機会を捉えて国に対して訴えていきます。

●第27回「いのちの電話相談員全国研修会和歌山大会」開催

・11月21日から23日にかけて、自殺をはじめとする精神的危機にある人の電話相談に従事している相談員を対象とした第27回「いのちの電話相談員全国研修会和歌山大会」が和歌山市で開催され、全国各地から約420名の相談員の参加がありました。

・開会式では、主催者である「社会福祉法人和歌山いのちの電話協会」の岩橋延直理事長が挨拶を行い、その後、仁坂知事及び大橋和歌山市長が来賓挨拶を行いました。

・そして、田辺市中辺路町に在住のイーデス・ハンソン氏による記念講演には、会場の一般入場者を含む1,000人を超える人々が熱心に聞き入りました。

・22日は電話相談における難問をはじめとした7つのテーマ別に分科会が開催され、相談員相互の意見交換及び交流が図られました。最終日には分科会の発表を含む全体会が行われました。

●「りいぶるフェスタ2009」「ふれあい人権フェスタ2009」開催

- ・11月21日、和歌山市内において「男女共同参画」を身近に考えることを目的に「りいぶるフェスタ2009」、人権について理解を深めるため「ふれあい人権フェスタ2009」を同時開催しました。
- ・「男女共同参画いきいき大賞」授賞式では、ベストパーソン賞に、子育て支援などを通じて男女共同参画の取り組まれている井指加奈子さん、全国初の女性森林組合長として活躍されている寒川歳子さん、また、ベストグループ賞に、地域の女性が主体となってゆずや桃の特産品加工販売などに取り組まれている「古座川ゆず平井の里」「桃りゃんせ夢工房」の皆さんが選ばれ、仁坂知事から表彰楯と記念品が授与されました。
- ・そして、和歌山盲学校小学部3年生の菅田利佳さんが、バイオリンで♪千の風になって♪や♪スタジオジブリメドレー♪などを楽しく元気に演奏しました。
- ・講演会では、中央大学法学部広岡守穂教授が「伝えたい『あなたと私』が変わるヒント」と題して、義母の介護や子育て期の夫婦関係など、ご自身の経験を交えながら、男女が互いに認め合い、身近なところから対等な関係を築いていく必要があると話され、参加者からも「分かりやすかった」と大変好評でした。



県広報番組『きのくに21』に新企画！

11月より『きのくに21』に「知事と語るスペシャル」と題し、県の施策の枠にとらわれず、全国的な時々の話題、社会問題等をテーマに、その事象の背景、現状と展望、県への影響や県がとるべき対応など視聴者の皆さんにわかりやすくお伝えする新企画がスタートしました。毎月、テーマに添った有識者をゲストにお招きし、仁坂知事とともに解説します。

『きのくに21』

放送局：テレビ和歌山

放送日：毎週日曜日（新企画は月1回の予定です）

放送時間：午前9時30分～午前10時（再放送）午後10時～午後10時30分

★番組は「和歌山県インターネット放送局」でもご覧いただけます。

アドレス→http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv/p_ch4/ch_4.html



和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

和歌山のみかんは、なぜ美味しい？



～味抜群！和歌山産みかん～

和歌山では温暖な気候と水はけの良い傾斜地など、恵まれた立地条件と先人の知恵をうまく活用しながらみかんづくりが行われています。果実にたっぷり養分が蓄えられ、糖と酸のバランスがとれた美味しいみかんに仕上がります。

種類も豊富で9月の^{ごく}早生みかんに始まり、11月の^{なか}早生みかん、12月の中生みかん、2月には貯蔵みかん^{なが}と長くみかんが楽しめます。

やっぱりみかんは和歌山産。生産者が真心こめて育てたみかんを今年もたくさん食べて下さいね！



傾斜地のみかん園

～センサーで、味も安心～

最近みかんの甘さが、消費者に分かりやすいように糖度で示されているのを時々見かけますよね？

みかんを市場へ出荷する施設を選果場といますが、そこではセンサーによる糖度と酸度の測定が行われています。みかんの味が数値化されることで、消費者の皆様には確かな味をお届けしようという産地の取組みなのです。

生産者はより甘く美味しいみかんを作るため、栽培方法の工夫や園地管理の徹底に頑張っています。



センサーによる選果の様子

～1日2個食べて冬も元気に！～

みかんをはじめ、くだものにはビタミン類など身体によい様々な栄養素が含まれています。

みかんに含まれるビタミンCには、抗酸化作用があり、免疫力を高める働きがあります。袋やスジは食物繊維で、コレステロールや脂質の吸収を抑えます。

「毎日くだもの200g運動」では、1日に食べる目安としてみかん2個程度としています。風邪に負けないためにもみかんをしっかり食べて下さいね。



「毎日くだもの200g運動」について知りたい方は→ <http://www.kudamono200.or.jp/>



～思わずゴクツ、和歌山産みかんジュース～

朝食時にみかんジュースを選ぶ方も多いと思いますが、こちらもぜひ和歌山県産をお試し下さい。飲めば違いが納得出来ます。

味の良い果実を使っているのはもちろん、果汁の搾り方にもこだわり、コクがあって爽やかです。

和歌山産のみかんジュースは下記インターネットショッピングモール「わいわい市場」でお求めいただけます。八朔や清見オレンジのジュースもあります。わいわい市場→ <http://www.wakayamaken.jp/>

ジュースもやっぱり和歌山産！



～美味しいみかんの見分け方～

冬はこたつでみかん、1つ2つ3つと、つつい手が出ますよね。

そこで必見！和歌山流の美味しいみかんの見分け方をご紹介します。

その1・果実の色が濃い（生産者は紅が濃いと言います）。

その2・皮が薄い。

その3・中玉（L, M, S）がおすすめ。極端な大玉は味が薄い。菊みかん

その4・へたの切り口が小さく、色が黄緑から黄色っぽいもの。

～果皮がデコボコしたみかんを見たことありますか？産地では菊の花に例えて「菊みかん」と呼んでいます（右上写真）。この菊みかん、味が濃く美味しいんです。もし見つけたらぜひお試しを！～



和歌山県内の参詣道にスタンプ押印所完成！！

高野山町石道、熊野古道大辺路にスタンプ押印所が完成しました。これで、熊野古道中辺路と合わせ、和歌山県内の参詣道にスタンプ押印所が整備されたこととなります。またひとつ、訪れる楽しみが増えた世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」。押印帳を手にとり、参詣道を歩いてみませんか。



丹生官省符神社



慈尊院



長井坂(和深川)

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」 和歌山三参詣道完全踏破証明書

和歌山県内の参詣道を踏破すると、和歌山県知事より完全踏破証明書を発行します。

- 和歌山県内の参詣道と押印所数
熊野古道中辺路 36カ所
高野山町石道 7カ所
熊野古道大辺路 6カ所

- 発行方法
3冊の押印帳を和歌山県観光振興課まで送付→証明書発行

※熊野古道中辺路完全踏破証明書は、これまでどおり発行します。

押印帳の入手方法



高野山町石道・熊野古道大辺路
押印帳は現地で入手可能。
観光連盟HPからも！

スタンプ収納箱・スタンプ台の内部に押印帳を設置しています。また、各観光協会でも配布しています。

和歌山県観光連盟HPから、ダウンロードすることもできます。

<http://kanko.wiwi.co.jp/>

ふるさと歳時記（すさみ町編）

～ 海の幸（ケンケン鰹、イセエビ）、イノブータン王国 すさみ町 ～

すさみケンケン鰹（プレミアム和歌山に認定）（表紙写真）

・日本一美味しい鰹といわれる「すさみケンケン鰹」。釣り上げたら、すぐ血抜きをし、氷水で持ち帰る事で鮮度の高さを保ちます。「ケンケン」とは、ハワイのカナカ語で、「ピョンピョン」。漁の時に疑似餌が海面を跳ねる様子を指し、その「ケンケン」が漁の名前になりました。

・ハワイから帰国した小野七之助がケンケン漁を伝えたのは、明治末期（1908年）のこと。すさみで改良され、今の形になったのですが、すさみ独特の手作りの潜行板（疑似餌を海中に潜らせる役目をする抵抗板）は全国的にも有名です。1月下旬～2月に始まるケンケン漁は、3月、4月に最盛期を迎えます。

・ブランド認証シールが目印の「すさみケンケン鰹」を是非どうぞ。

イセエビ

・すさみは、イセエビが美味しいことでも有名。10月～2月には JR 周参見駅が「イセエビ博物館」に変身します。イセエビの水槽やイセエビ漁の歴史などの展示が行われます。イセエビの美味しい、その同じ時期には「イセエビ味覚まつり」として、1泊2食付で9,800円～イセエビ料理（お一人に一匹分～）をお楽しみいただけます。（2名様以上要予約）海を眺めながらのお部屋でごゆっくりと鍋や会席、フランス料理等を満喫してみませんか。詳しくは、「すさみ町観光協会」まで

イノブータン王国

・すさみで生まれたイノブタ。お父さんが猪、お母さんが豚で1970年、すさみにある県の畜産試験場で誕生しました。（イノブタは、プレミアム和歌山に認定）

・かわいいイノブタが人気の「イノブタダービー」が1981年から始まり、1986年「イノブータン王国」として日本国から独立。道の駅「イノブータンランドすさみ」（国道42号沿い）では、ミニ独立国「イノブータン王国」の紹介を写真やパネルや大型テレビで行っています。町のマスコットとして大活躍のイノブタです。

エビとカニの水族館

・すさみのエビ網漁であがったエビやカニを主に集めた水槽やタッチングプールなどがあります。また、この時期恒例のクリスマス特集展などもあります。

すさみ町ホームページ <http://www.town.susami.lg.jp>

～編集後記～

師走を迎え、今年も残りわずかとなって参りました。京都清水寺の奥の院舞台で、森清範貫主が今年の世相を表す漢字一文字を揮毫されるニュースが流れますと、いよいよ年が暮れようとする感が高まってきます。そして、季節は、日を追うごとに寒さが身に染みて感じられるようになりました。とは言え、冬至を過ぎますと、少しずつ日が長くなり、中国では「一陽来復」という言葉で称されるように、悪い事が続いた後で好運に向いてくるといわれています。

さて、今年は、時代が大きな変化迎えた年であったと思います。また、景気の回復が遅れ、地方においても依然厳しい状況が続いています。しかし、こうした時であるからこそ、一生懸命頑張って、一陽来復の新年を迎えたいものです。

この1年、「和歌山だより」では、様々な県内の動きを皆様に伝えてきました。

世界遺産登録5周年のイベント、観光や県産品のトップセールス、県が実施する経済対策や雇用対策、全国植樹祭、地域資源の発掘プロジェクトなど、仁坂知事を先頭に県職員が一丸となり、厳しい財政状況の中、止まることなく色々な政策を進めてきました。

政策には、即効性のあるもの、あるいは、将来への種を蒔くものなどがあります。

今年の干支は「牛」ですが、牛は寒気厳しい季節に強く耐えるというのが特徴であるそうです。今年の踏ん張りを、来るべき新年に活かせるよう、県は総力を挙げて頑張ります。

来年は、「和歌山だより」も3年目を迎えます。和歌山の出来事やイベントなどを、より詳しく、分かり易く作成し、更に充実させてまいりますので、皆様方におかれましても応援いただきますよう、よろしくお祈りいたします。

皆様方におかれましては、お健やかに、そして幸多き年をお迎えされますことを心からお祈りいたします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧ください。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお祈りいたします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年(平成21年)12月 NO.21
和歌山県 秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1
TEL 073-441-2022